

がんのリハビリテーショングランドビジョン作成ワーキンググループ

2012年度（平成24年度）第2回会議録

日時：2012年10月26日（金）18時30分～20時50分 場所：八重洲倶楽部 第2会議室

出席：生駒 一憲（日本リハビリテーション医学会診療ガイドライン委員会 担当理事）

水間 正澄（日本リハ医学会診療ガイドライン委員会 委員、がんのリハ研修合同委員会 委員長）

辻 哲也（日本リハ医学会診療ガイドライン委員会 委員長、厚労省委託がんのリハ研修委員会 委員長）

佐浦 隆一（日本リハビリテーション医学会診療ガイドライン委員会 委員）

田沼 明（日本リハビリテーション医学会診療ガイドライン委員会 委員）

鶴川 俊洋（日本リハビリテーション医学会診療ガイドライン委員会 委員）

水落 和也（日本リハビリテーション医学会診療ガイドライン委員会 委員）

宮越 浩一（日本リハビリテーション医学会診療ガイドライン委員会 委員）

村岡 香織（日本リハビリテーション医学会診療ガイドライン委員会 委員）

柏浦 恵子（日本リハビリテーション看護学会）

小磯 玲子（日本リハビリテーション看護学会）

阿部 恭子（日本がん看護学会）

増島 麻里子（日本がん看護学会）

高倉 保幸（日本理学療法士協会）

小林 毅（日本作業療法士協会）

神田 亨（日本言語聴覚士協会）

加藤 雅志（独立行政法人国立がん研究センター）

議題：

【報告事項】

1. 前回の会議録（資料）

2. 前回会議からの経緯

前回の会議での意見交換を受けて、担当分野の委員はグランドデザインの内容を加筆・修正の作業を実施した。

【審議事項】

1. 作業の進捗状況報告（資料：分野1～分野4のグランドデザイン）

グランドデザイン試案について分担項目ごとに作業を実施中。本会議では分担ごとに、進捗状況を発表し、意見交換を行った。

共通の修正点：

- ・要旨：「目的」、「現状」、「行動計画」の大項目ごとに記載する。

第1分野：

- ・行動計画：一部修正（4行目：がん治療のクリティカルパスに関連する項目）

第2分野：

- ・要約の作成
- ・現状：がん拠点・がんセンターのリハ科専門医の数
- ・現状：「5）医療現場でのニーズ」は第3分野へ移行。
- ・現状：（厚労省委託・合同委員会）がんリハ研修：平成19年～平成24年までの実績を「現状」に掲載。
- ・行動計画：章末資料1・2の掲載。
- ・がんプロフェSSIONALコース：慶應（平成19～23年）の実績は「現状」に掲載、慶應・神戸・京都（平成24年～）はどのようなコースか具体的に「行動計画」に掲載。

第3分野：

- ・現状：一部加筆・修正。
- ・行動計画：診療報酬に関する提言も掲載（回復期・外来リハビリ）。

第4分野：

- ・現状：過去5年間の主な学協会の企画を掲載（具体的に）。
- ・現状：過去5年間の各学協会の演題数とがんリハビリの内容を掲載。

- ・現状：現状の考察を記載。
- ・行動計画：「5) 関連する厚労省研究班との連携」で各研究班の具体的な研究内容の概要を掲載。

2. 第2回がんのリハビリテーション懇話会の開催の件

2013年1月12日（土）に東京で開催予定。一般演題の応募にまだ余裕があるので、締め切り期限を1か月延長して11月末日までとする。各学協会でも広報をお願いします。

シンポジウム：シンポジストの推薦を各学協会に依頼中。

単位認定：第1回と同様に、理学療法士協会、作業療法士協会では単位認定を行う方針。

3. 本ワーキンググループの今後のありかたについて（がんのリハビリテーション懇話会の継続について）

本ワーキンググループは、厚生労働科学研究費補助金（第3次対がん総合戦略研究事業）がんのリハビリテーションガイドライン作成のためのシステム構築に関する研究として各学協会からの推薦委員で活動を行ってきた。本研究は本年度が最終年度であり、ワーキンググループは平成25年3月31日をもって任務を満期終了となる予定。

「がんのリハビリテーション懇話会」に関しては、がんのリハビリテーションに関する全国規模の唯一の多職種参加の研究会であるということから来年度以降も開催すべきであるという要望が多く委員から挙げられた。については、次回の委員会で継続開催の方向で検討することとなった。

懇話会の運営委員については、

- ・本ワーキンググループの委員を中心に有志を募って構成。
 - ・本ワーキンググループと同様に各学協会からの推薦委員で構成。
- などの案が挙げられた。本件は次回の審議事項となった。

4. 今後の活動計画

・グランドデザインについて

11月末まで：本日の審議を受けて内容を整理して、各担当分野ごとに加筆修正。

12月半ばまで：グランドデザイン原案を全委員に回覧し、コメントを求める。

1月半ばまで：校正作業終了。ホームページの更新。

2月上旬：簡易製本完成

3月中：グランドデザインを全国の癌拠点病院、医学部、リハビリ療法士養成校に配布する。

リハビリテーション医学会ではパブリックコメントを求めず、活動の成果として学会ホームページに掲載する。他の各学協会については、各々の方針に従って対応することとする。

次回委員会は2013年3月1日（金）18：00から（詳細は後日連絡）。

以上。

がんのリハビリテーショングランドビジョン作成ワーキンググループ

2012年度（平成24年度）第3回会議録

日時：2013年3月1日（金）18時00分～19時45分 場所：八重洲倶楽部 第2会議室

出席：辻 哲也（日本リハ医学会診療ガイドライン委員会 委員長、厚労省委託がんのリハ研修委員会 委員長）

佐浦 隆一（日本リハビリテーション医学会診療ガイドライン委員会 委員）

田沼 明（日本リハビリテーション医学会診療ガイドライン委員会 委員）

鶴川 俊洋（日本リハビリテーション医学会診療ガイドライン委員会 委員）

水落 和也（日本リハビリテーション医学会診療ガイドライン委員会 委員）

宮越 浩一（日本リハビリテーション医学会診療ガイドライン委員会 委員）

村岡 香織（日本リハビリテーション医学会診療ガイドライン委員会 委員）

柏浦 恵子（日本リハビリテーション看護学会）

小磯 玲子（日本リハビリテーション看護学会）

増島 麻里子（日本がん看護学会）

高倉 保幸（日本理学療法士協会）

小林 毅（日本作業療法士協会）

神田 亨（日本言語聴覚士協会）

鈴木・中澤（金原出版）

欠席：生駒 一憲（日本リハビリテーション医学会診療ガイドライン委員会 担当理事）

水間 正澄（日本リハ医学会診療ガイドライン委員会 委員）

阿部 恭子（日本がん看護学会）

加藤 雅志（独立行政法人国立がん研究センター）

議題：

【報告事項】

1. 前回の会議録（資料）

2. 前回会議からの経緯

前回の会議での意見交換を受けて、担当分野の委員はグランドデザインの内容を加筆・修正の作業を実施した。原案の校正作業は金原出版に委託し、校正済みの原稿を委員に送付し最終の確認作業を進めている段階。

3. 第3次対がん総合戦略研究事業研究成果報告会

平成25年2月19日に国際研究交流会館3F 国際会議場（築地：国立がん研究センター敷地内）にて開催され、本研究班の成果について辻哲也（主任研究員）が発表した。がんリハビリガイドラインの欧米諸国の現状や我が国での広報活動、がんリハ普及に向けた取り組み、外部審査の方法などについて、質疑応答がなされたが、研究成果については高評価が得られた印象。後日、評価点が送付される予定。

4. がんのリハビリテーションガイドラインの進捗状況

ガイドライン策定委員がゲラ原稿の確認作業中。パブリックコメントはリハ学会員は終了、がん治療学会と造血幹細胞移植学会は返事まち。

5. 第2回がんのリハビリテーション懇話会の開催報告

2013年1月12日に東京にて「第2回がんのリハビリテーション懇話会」を開催した。今回は、特別講演としてテキサス州立大学MD アンダーソンがんセンターリハビリテーション科准教授のRajesh R. Yadav先生を招聘し、米国におけるがんのリハビリテーションの取り組みについて講演をしていただいた。また、指定演題として「進行がん患者に対するリハビリテーション」をテーマに4名の演者からご講演いただいた。懇話会には第1回同様全国各地から、様々な職種の参加を得て、出席者数は約300名であった。

アンケート結果については概ね好評であった。委員に今後配信予定。研究報告書にも掲載予定。

また、懇話会の開催報告を「総合リハビリテーション」、「クリニカルリハビリテーション」、「日本リハビリテーション医学会リハニュース」に掲載し、事後の広報を行う予定。

【審議事項】

1. 作業の進捗状況報告（資料：分野1～分野4のグランドデザイン）（資料）

グランドデザイン試案について分担項目ごとに作業を実施中。本会議では金原出版の担当者2名に参加いただき、校正済み原稿の最終確認を行い、懸案事項はほぼクリアされた。今後の予定は下記のとおり。

- 3月4日：校正最終締め切り（修正点あれば金原出版に送付）
- 3月7日：校了（修正点あれば午前中までに金原出版に送付）
- 3月11日：印刷→製本
- 3月14日：450部納品（慶應義塾大学医学部リハビリテーション医学教室・厚労科研事務局へ）

2. 本ワーキンググループの今後のありかたについて（がんのリハビリテーション懇話会の継続について）

本ワーキンググループは、厚生労働科学研究費補助金（第3次対がん総合戦略研究事業）がんのリハビリテーションガイドライン作成のためのシステム構築に関する研究として各学協会からの推薦委員で活動を行ってきた。本研究は本年度が最終年度であり、ワーキンググループは平成25年3月31日をもって任務を満期終了となる予定。

「がんのリハビリテーション懇話会」に関しては、がんのリハビリテーションに関する全国規模の唯一の多職種参加の研究会であるということから来年度以降も開催すべきであるという方向性は前回の第2回会議で承認され、本会議では下記の点について審議を行った。

・「がんのリハビリテーション懇話会」の名称について

緩和医療学会の会期中に「がんのリハビリテーション研究会」を開催してきたが、発展的に、「リハビリテーションフォーラム」として緩和医療学会のセッションのひとつとして毎年開催されることとなった。結果的に、「がんのリハビリテーション研究会」の名称の使用が可能となった。

本懇話会では、当初、「研究会」の名称が使用されていたため、やむを得ず「懇話会」の名称を使用したという経緯があったこともふまえて、本懇話会の名称を「**日本がんリハビリテーション研究会**」とすることが承認された。

・委員の構成について

本ワーキンググループの委員を中心に有志を募って構成、本ワーキンググループと同様に各学協会からの推薦委員で構成の2案が挙がり、前案が承認された。後案については、予算を確保し参加者を増やすためには最善策であるが、各学協会とも来年度の予算や企画は決定済みの時期であり、新たに予算に組み込むことの困難である点、すべての学協会の承認を得ることの難しさが指摘された。

新たな委員の推薦および現委員の辞退については辻がとりまとめた上でメール審議で決定する。

・運営方法について

年1回の研究会を大都市で開催（関東と関西を交互など）、経費削減のため大学の講堂を利用することが承認された。市民公開講座などのイベントも補助金を得ながら開催することも提案された。

研究会の参加費により、準備会議や開催日の交通費・宿泊費を賄う、抄録に企業の広告を活用する、企業の共催を得るなどの案があり、今後検討予定。

・次回の研究会について

2014年1月11日（土）に関西で開催することが内定した。会場については佐浦委員に調査していただく予定。

・がんのリハビリテーション ベストプラクティス

本研究班の成果であるガイドラインとグランドデザインに準拠したがんリハビリのマニュアル本を作成する方向が承認された。平成25年4月以降に新しい委員構成で再スタートする研究会の取り組みとして作業していく予定。

4. 今後の活動計画

- 3月14日：グランドデザインの簡易製本完成
- 4月：ガイドライン出版
- 5月初旬：ガイドライン、グランドデザインを全国の癌拠点病院に配布する。
本研究班HP、リハビリ関連学協会HPにグランドデザインをPDFでアップ。

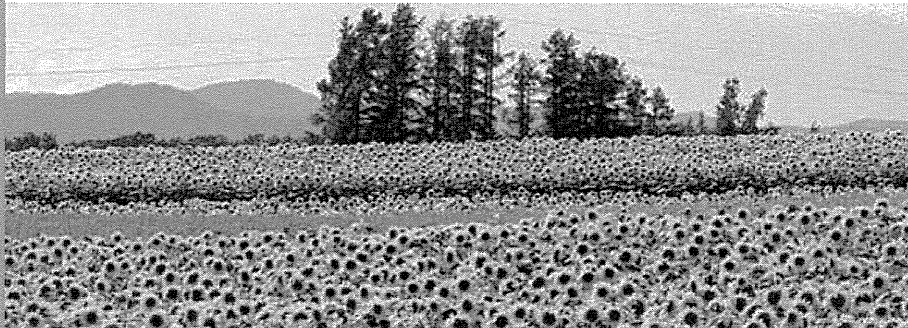
以上。

資料6：研究班ホームページ

厚生労働科学研究費補助金(第3次対がん総合戦略研究事業)

がんのリハビリテーション

ガイドライン作成のためのシステム構築に関する研究



がんのリハビリテーション ガイドライン

● 委員一覧 ● 研究協力者一覧 ● 資料

- I** がんリハの
普及・啓発
- II** がんリハの
人材育成
- III** がんのリハ
提供体制の整備
- IV** がんのリハ
研究の推進

これまでわが国のがん医療では身体的ダメージに対して積極的な対応がなされず、治癒を目指した治療からQOLを重視したリハビリテーションまで切れ目のない支援ができていませんでした。その一因は、がんのリハビリテーションに関する包括的なガイドラインが存在しないため、適切なリハビリテーションプログラムが組み立てられないことにあります。本研究の目的は、がんのリハビリテーショングランドデザインによって方向付けされるエビデンスレベルの高い、がんのリハビリテーションに関するガイドラインを作成し普及させることです。
—詳細

研究代表者 辻 哲也 慶應義塾大学医学部リハビリテーション医学教室

NEWS

最終更新日: 2011年8月29日

- がんリハの普及・啓発について(2011年8月29日)
- がんリハの人材育成について(2011年8月29日)
- がんのリハ提供体制の整備について(2011年8月29日)
- がんのリハ研究の推進について(2011年8月29日)
- ホームページリリースしました(2011年8月29日)

日本リハビリテーション
医学会

日本理学療法士協会

日本作業療法士協会

日本言語聴覚士協会

日本リハビリテーション
看護学会

日本がん看護学会

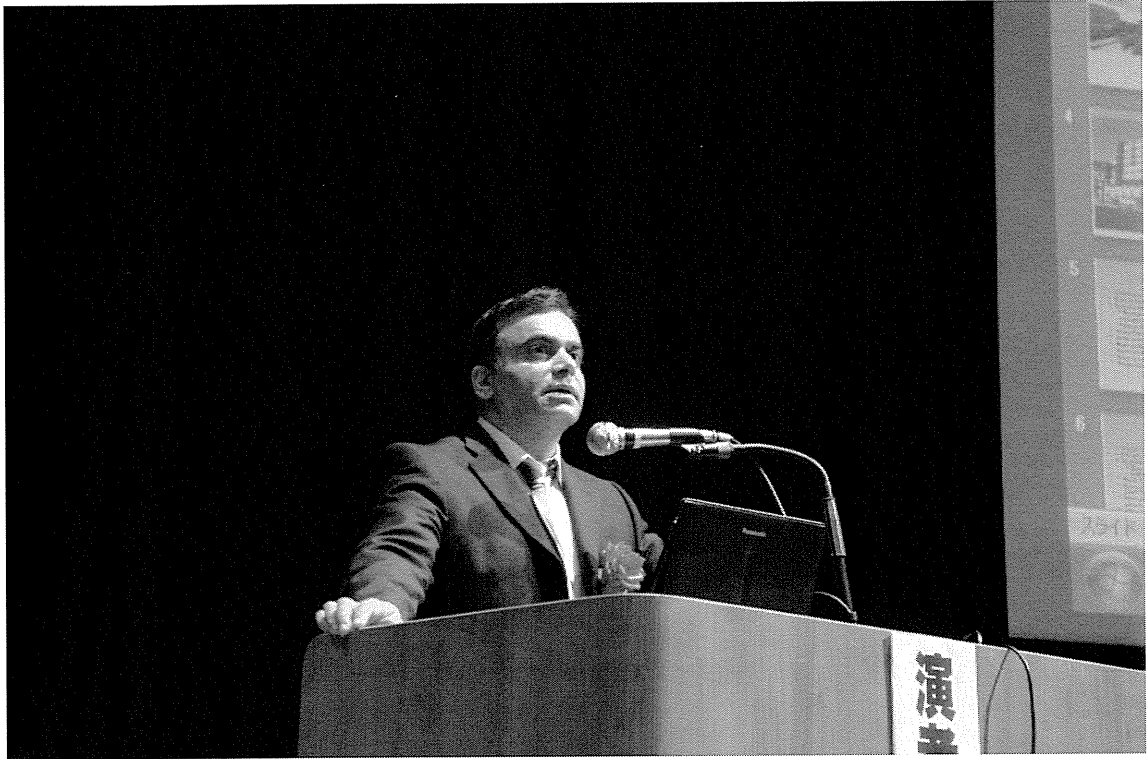
がん対策情報センター

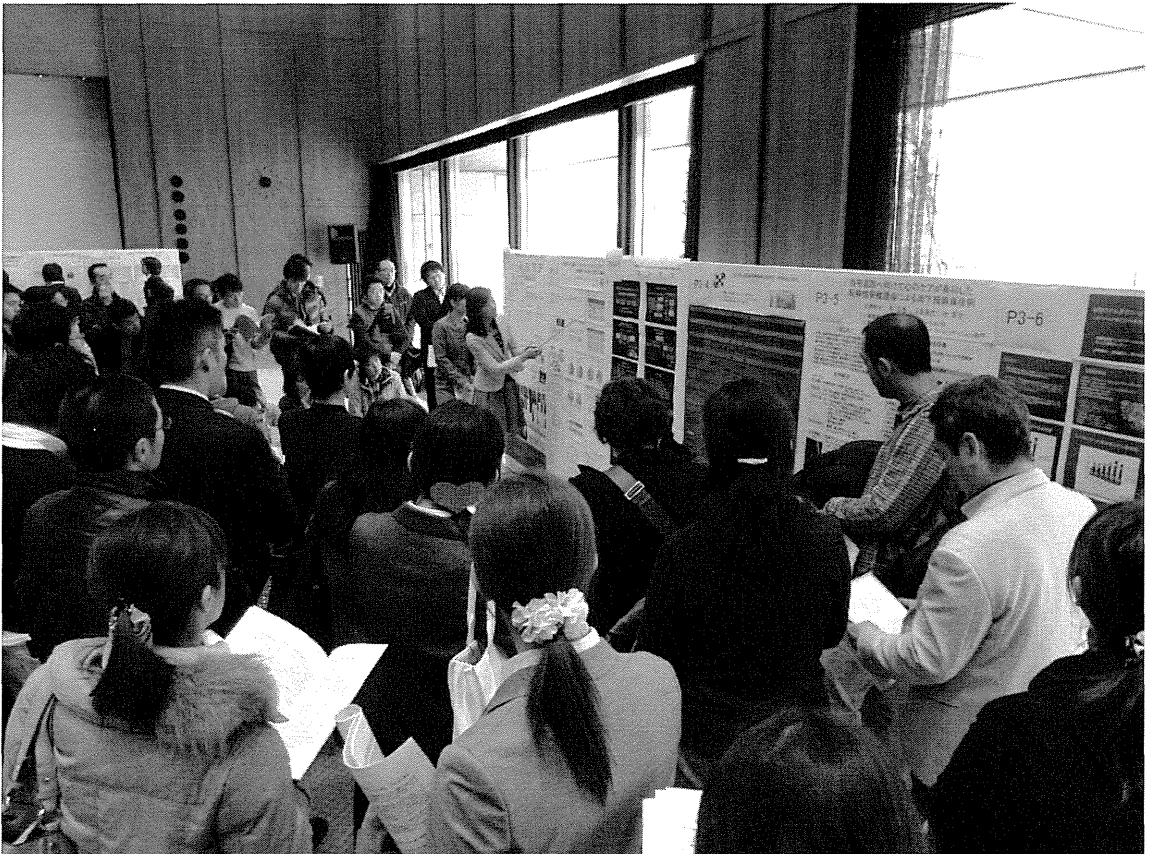
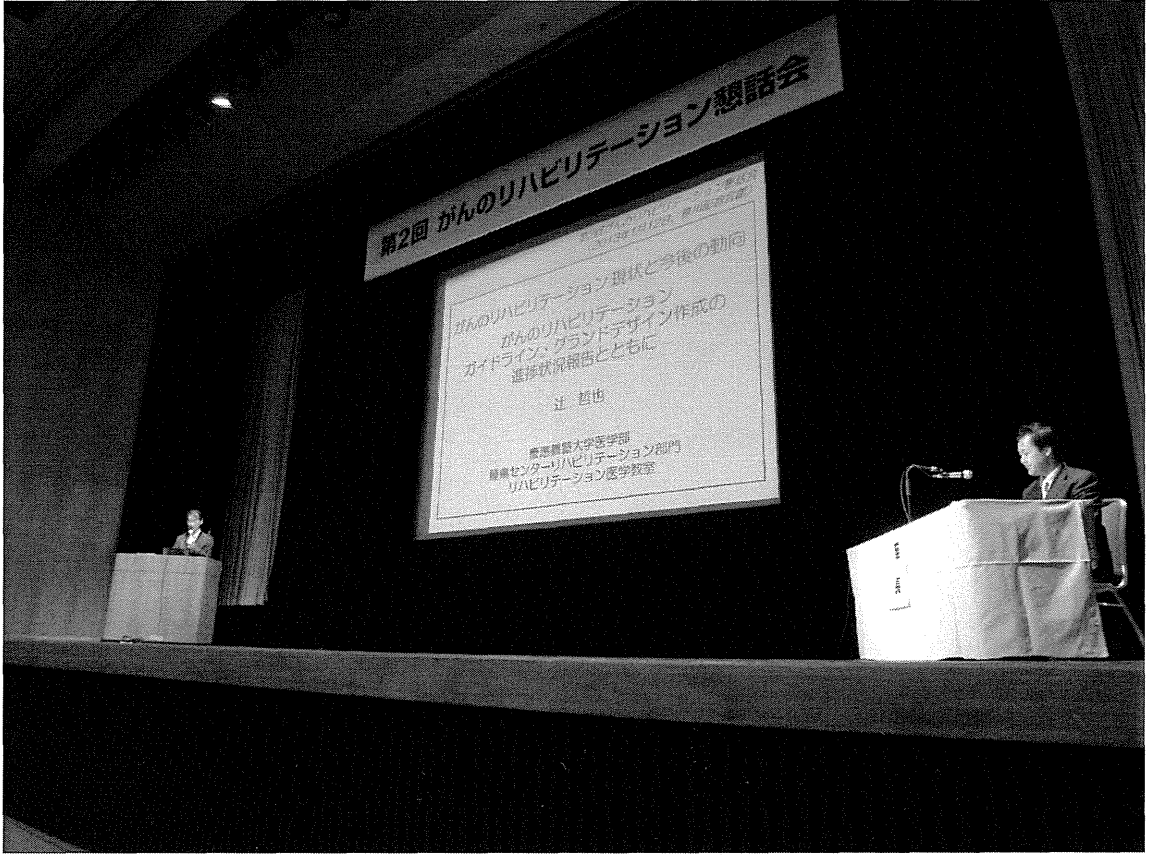
厚労省委託
がんのリハビリテーション
研修委員会

がんのリハビリテーション
懇話会

お問い合わせ | リンク

資料7：がんのリハビリテーション懇話会
会場の様子







資料8：がんのリハビリテーション懇話会
抄録集

タイムテーブル

	9			10					11					12					13					
	30	40	50	0	5	10	20	30	40	50	0	10	20	30	40	50	0	10	20	30	40	50	0	
受付	受付開始																							
2階・国際会議場				開会挨拶	基調講演 辻哲也										一般演題 口演									
4階・第1第2会議室	ポスター貼付										一般演題 ポスター P1-1～P1-6 P2-1～P2-6 P3-1～P3-6 P4-1～P4-6													

プログラム

- 09:30 受付開始
- 10:00 開会挨拶 生駒一憲（北海道大学病院リハビリテーション科 教授）
- 10:05 基調講演（座長 宮越浩一）
「がんのリハビリテーションの現状と今後の動向
～がんのリハビリテーションガイドラインおよびグランドデザイン作成の進捗状況報告とともに」
辻哲也（慶應義塾大学医学部腫瘍センター リハビリテーション部門長）
- 10:40 一般演題 ポスター（座長 P1 鶴川俊洋 P2 田尻寿子 P3 松本真以子 P4 村岡香織）
- P1-1 ターミナルケアにおけるチームアプローチの実践 大森桃子
 - P1-2 動作時の呼吸指導と多職種介入により在宅での療養が可能となった
末期の肺癌、転移性肺腫瘍の一例 岡村佑人
 - P1-3 食欲不振を訴える肺がん患者に作業療法士ができること
～ADL状況と栄養状態の後方視的調査から～ 池知良昭
 - P1-4 脳転移患者に対するリハビリの有用性 藤田智彦
 - P1-5 小児がんのリハビリテーション 宇高千恵
 - P1-6 直腸癌術後の排便障害改善への取り組みー耐容量向上への取り組みー .. 樋野正裕
 - P2-1 慢性骨髄性白血病に大腿骨転移を合併したまれな症例に対する
リハビリテーションの経験 小泉浩平
 - P2-2 急性骨髄性白血病に対し造血幹細胞移植を行い、
異なる治療経過を辿った2症例の運動耐用能の変化に関する比較 佐藤大
 - P2-3 終末期リハビリテーションの役割について
～MDASI-Jを用いた症状認識の調査より～ 荒川広宣
 - P2-4 終末期におけるPTの関わり～病態に応じた患者様のneedの実現のために～
..... 井ノ本千沙
 - P2-5 当院における緩和ケア病棟におけるリハビリテーションの取り組み 佐々木貴義
 - P2-6 大学病院における緩和ケア病棟リハ開始時の患者状況と転帰 高橋晴美
 - P3-1 骨転移患者に対するリハビリ時のリスクマネジメント 中田英二
 - P3-2 当院のがん患者リハビリテーションにおける骨転移への対応に関する検討 .. 大野綾
 - P3-3 脊椎SRE(Skeletal related event)の保存的治療時の安静度の検討 重見篤史
 - P3-4 進行期の転移性骨腫瘍入院患者の移動能力変化 島雅晴
 - P3-5 自宅退院へ向けて心のケアが奏功した転移性脊椎腫瘍による両下肢麻痺症例
..... 三橋範子
 - P3-6 当院のがん患者リハビリテーションー進行がんの算定とがん患者リハ施設基準ー
..... 宮崎博子

					14						15						16						
0	20	30	40	50	0	10	20	30	40	50	0	10	20	30	40	50	0	10	20	30	40	45	50
01~07					指定演題 宮川哲夫/大原有郁子/ 平いつき/奥朋子					特別講演 Rajesh R. Yadav					閉会挨拶								
ポスター掲示																						ポスター撤去	

- P4-1 乳癌に対する術後上肢機能障害予防システムの有用性 菊池祐人
P4-2 乳癌ADL対策システムの有用性 青木裕美
P4-3 乳癌再発患者の呼吸障害に対する乳癌ADL維持システムの有用性 岩田織江
P4-4 若年者の進行期の骨軟部腫瘍症例に生じたリンパ浮腫に対する治療経験 濱田健一郎
P4-5 続発性下肢リンパ浮腫に対する複合的治療介入前後のQOL変化 吉川正起
P4-6 がんリハビリテーションにおける医師事務作業補助者の役割 宮本千絵

12:30 一般演題 口演 (座長 小林毅)

- O-1 がん患者に対する訪問リハビリテーションの効果 松本真以子
O-2 当院におけるがんリハビリテーションの現状～がんリハビリテーションチームにおける
がん看護専門看護師の役割の検討～ 前田絵美
O-3 MD Anderson Cancer Centerにおけるがんに伴う倦怠感軽減に対する
作業療法士の関わり 藤井美希
O-4 当院における造血器腫瘍患者に対するリハビリテーション 西田毅之
O-5 進行期がん患者の骨転移部位と骨折リスクの把握について
(PETなどの撮影範囲の問題点) 杉原進介
O-6 リハビリテーション職種としての緩和ケアチーム(PCT)介入について
(手稲溪人会病院PCTにおけるリハビリテーションスタッフの活動について) .. 佐藤義文
O-7 大腸癌手術ERAS管理の中での周術期がんのリハビリテーションの有用性 .. 太田博文

14:00 指定演題 進行がん患者に対するリハビリテーション (座長 高倉保幸)

- 「呼吸困難への対応」 宮川哲夫 (昭和大学大学院保健医療学研究科呼吸ケア領域 教授)
「ADL障害への対応」 大原有郁子 (東札幌病院 作業療法士)
「嚥下障害への対応」 平いつき (至誠堂宇都宮病院リハビリテーション科 言語聴覚士)
「浮腫への対応」 奥朋子 (千葉大学医学部附属病院 がん看護専門看護師)

15:30 特別講演 (座長 水落和也) 同時通訳有

- 「Current status and future of cancer rehabilitation in United States」
Rajesh R. Yadav (テキサス州立大学MDアンダーソンがんセンター リハビリテーション科 准教授)

16:40 閉会挨拶 辻哲也 (慶應義塾大学医学部腫瘍センター リハビリテーション部門長)

第2回 がんのリハビリテーション懇話会

● 開催のご案内と演題募集 ●

開催の趣旨

がんの治療技術が向上し生命予後が改善するなか、がん患者さんの QOL 維持・向上が重要視されるようになり、がんのリハビリテーションへの期待が高まっています。しかし、日本の医療機関においてはがん患者さんに対するリハビリテーションがまだ十分に普及していない状況です。

本懇話会は、がんのリハビリテーションの普及と今後の臨床や研究の質の向上を目指した意見交換の場を提供する目的で企画されました。今回は、がんのリハビリテーション先進国である米国 MD アンダーソンがんセンターの Yadav 医師の講演を予定しております。豊富な知識や経験に基づいたお話が伺えるものと期待されます。多数の方のご参加をお待ちしております。

開催日時 : 2013 年 1 月 12 日 (土) 10:00~17:00 (受付 9 時 30 分より)

会場 : 笹川記念会館 国際会議場・他

〒108-0073 東京都港区三田 3-12-12 Tel 03-3454-5062

JR 田町駅(三田口) 徒歩 8 分

京浜急行・都営地下鉄 泉岳寺駅 徒歩 3 分

対象 : がんのリハビリテーションに興味のある医療職の方すべて

参加費 : 無料 (事前申し込み不要)

基調講演

演題 「がんのリハビリテーションガイドライン作成の取り組み（仮題）」

講師 辻 哲也

（慶應義塾大学医学部腫瘍センター リハビリテーション部門長）

一般演題 下記の要領で募集いたします

指定演題

テーマ 「進行がん患者に対するリハビリテーション」

呼吸困難、ADL 障害、嚥下障害、浮腫への対応

特別講演（同時通訳有）

演題 「米国がんセンターにおけるがんのリハビリテーションの取り組み(仮)」

講師 Rajesh R. Yadav

（テキサス州立大学 MD アンダーソンがんセンター リハビリテーション科准教授）

演題募集

一般演題の抄録を募集しております。10 月末日までに「演題名」「所属」「職種」「筆頭演者」「抄録本文（600 字程度）」「発表形式（口演・ポスター）の希望」を明記のうえ、下記連絡先まで Eメールでご連絡ください。なお、発表形式についてはご希望に沿えない場合がございますがご了承ください。

主催：がんのリハビリテーショングラウンドビジョン作成ワーキンググループ
厚生労働科学研究費補助金（第3次対がん総合戦略事業）がんのリハビリテーション
ガイドライン作成のためのシステム構築に関する研究班

代表：辻 哲也（研究代表者：慶應義塾大学医学部腫瘍センター リハビリテーション部門長）

幹事：田沼 明（静岡県立静岡がんセンター リハビリテーション科）
宮越 浩一（亀田総合病院 リハビリテーション科）

事務局（問い合わせ・抄録送付先）

静岡県立静岡がんセンター

リハビリテーション科 【担当】 野澤／田沼

〒411-8777 静岡県駿東郡長泉町下長窪 1007

Tel : 055-989-5222 (代)

E-mail : t.nozawa@scchr.jp

第2回 がんのリハビリテーション懇話会 プログラム・抄録集

日時:2013年1月12日(土) 10時~17時

会場:笹川記念会館

第2回 がんのリハビリテーション懇話会

開催の趣旨

がんの治療技術が向上し生命予後が改善するなか、がん患者さんの QOL 維持・向上が重要視されるようになり、がんのリハビリテーションへの期待が高まっています。しかし、日本の医療機関においてはがん患者さんに対するリハビリテーションがまだ十分に普及していない状況です。

本懇話会は、がんのリハビリテーションの普及と今後の臨床や研究の質の向上を目指した意見交換の場を提供する目的で企画されました。今回は、がんのリハビリテーション先進国である米国 MD アンダーソンがんセンターの Yadav 医師の講演を予定しております。豊富な知識や経験に基づいたお話が伺えるものと期待されま

日時：2013年1月12日(土) 10時～17時 (受付9時30分より)

会場：笹川記念会館 国際会議場(2階) 第1・第2会議室(4階)

〒108-0073 東京都港区三田 3-12-12 電話:03-3454-5062(代表)

京浜急行・都営地下鉄泉岳寺駅より徒歩3分、JR 田町駅より徒歩8分

対象：がんのリハビリテーションに興味のある医療職の方すべて

参加費：無料 (事前申し込み不要)

主催

がんのリハビリテーショングランドビジョン作成ワーキンググループ

厚生労働科学研究費補助金(第3次対がん総合戦略研究事業)

がんのリハビリテーションガイドライン作成のためのシステム構築に関する研究 研究班

後援

日本リハビリテーション医学会(日本リハビリテーション医学会設立50周年記念事業カウントダウン企画)

日本理学療法士協会

日本作業療法士協会

日本言語聴覚士協会

日本がん看護学会

日本リハビリテーション看護学会

代表

辻 哲也 (研究代表者、慶應義塾大学医学部腫瘍センター リハビリテーション部門長)

幹事

田沼 明 (静岡県立静岡がんセンター リハビリテーション科)

宮越 浩一 (亀田総合病院 リハビリテーション科)

事務局(問い合わせ先)

静岡県立静岡がんセンター リハビリテーション科 担当 野澤・田沼

〒411-8777 静岡県駿東郡長泉町下長窪 1007

電話 055-989-5222

E-mail:t.nozawa@scchr.jp

一般演題演者の先生へのお知らせ

1 口演発表

2 階国際会議場にて発表をおこないます。

発表時間 7 分、討論時間 3 分です。

11 時 30 分までに 2 階国際会議場ホワイエにてスライド受付を済ませ、発表前は次演者席にてお待ちください。

発表データは Windows PowerPoint で作成し、USB メモリでお持ちください。発表用コンピュータには PowerPoint 2010 を用意いたします。あらかじめ最新のウィルス駆除ソフトで発表データのチェックをお願いいたします。また必ずバックアップデータをお持ちください。お預かりした発表データは会期終了後に削除いたします。

2 ポスター発表

4 階第 1・第 2 会議室にて発表をおこないます。

発表時間 7 分、討論時間 3 分です。

ポスターサイズは下記のとおりです。

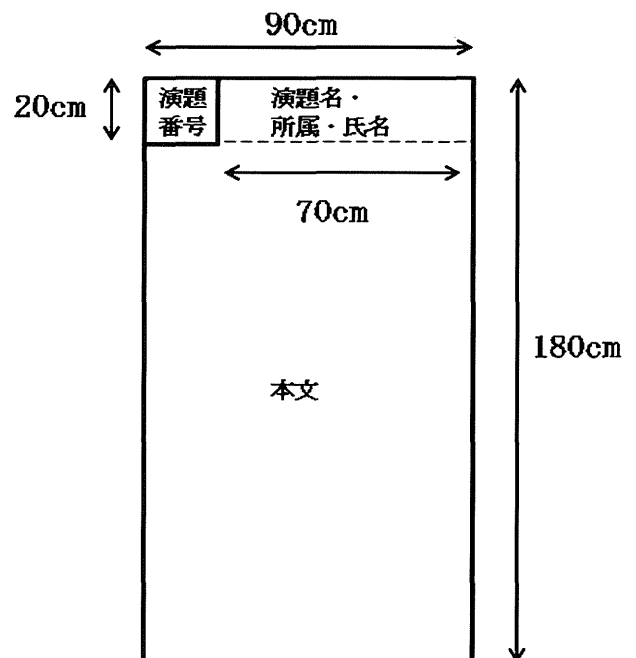
演題名・所属・氏名：縦 20cm × 横 70cm

本文：縦 160cm × 横 90cm

演題名・所属・氏名は各自でご用意ください。

演題番号、貼付用の押しピンは事務局で準備いたします。

ポスターは各自で作成し、10 時 30 分までに貼付ください。撤去は 16 時 45 分～17 時 15 分をお願いいたします。指定時刻を過ぎても撤去されていないポスターは事務局にて処分いたします。



基調講演

がんのリハビリテーションの現状と今後の動向

～がんのリハビリテーションガイドラインおよびグランドデザイン作成の進捗状況報告とともに

慶應義塾大学医学部腫瘍センター リハビリテーション部門長 辻 哲也

がん患者にとって“がんに対する不安”は大きいですが、がんの直接的影響や治療による“身体障害に対する不安”も同じように大きい。がん治療の進歩により、がん患者の生存期間が長期化し、がん生存者が300万人を超える現在、“がんと共存する時代”の新しい医療のあり方が求められている。これまでわが国のがん医療では、身体的ダメージには積極的な対応がなされず治癒を目指した治療からQOLを重視したリハビリテーション（以下、リハビリ）まで切れ目のない支援ができていないのが現状である。

その一因は、がんのリハビリに関する包括的なガイドラインが存在しないため、適切なリハビリプログラムが組み立てられないことにある。今後、がんのリハビリを普及・啓発していくためにはガイドラインの確立が必須である。作成されたガイドラインは更新され全国へ均てん化される必要がある。そこで、厚生労働科学研究費補助金（第3次対がん総合戦略事業）がんのリハビリガイドライン作成のためのシステム構築に関する研究班（研究代表者：辻 哲也）を平成22年度に発足し、平成24年度まで3年間の活動を予定している。

研究班の目的は、I. 日本リハビリ医学会診療ガイドライン委員会にがんのリハビリテーションガイドライン策定委員会を新設し、ガイドラインを作成すること、II. がんのリハビリの関連学協会（日本リハビリ医学会、日本理学療法士協会、日本作業療法士協会、日本言語聴覚士協会、日本がん看護学会、日本リハビリ看護学会）、（厚労省委託事業）がんのリハビリ研修委員会、国立がんセンターがん対策情報センター等から推薦された委員によって構成されるワーキンググループを発足し、がんのリハビリテーションに関するグランドデザインを作成し、その枠組みの中で全国のがんのリハビリに関わる多職種の医療従事者、一般市民・患者、行政の間で、ガイドラインの公開・更新を含め情報共有や意見交換ができる体制をつくり、対象施設における特性、医療者の技量にも配慮しつつ、全国がん診療連携拠点病院、回復期リハビリ病棟、在宅医療施設・緩和ケアチーム等に普及させること、である。

一つの医療分野を確立するためには、研究(Research)を推進し、それに裏付けされたガイドライン(Guideline)を作成、そして、そのガイドラインに基づいた臨床研修(Training)を実施し、専門的スタッフを育成することで医療の質を担保し、その上で医療を実践する(Practice)ことが必要である。我が国のがんリハビリは10年前にはこのいずれもが貧弱であったが、その後、がん対策基本法の制定やがん患者リハビリ料の新設が追い風となり、がんリハビリに関する関連学会での発表は年々増加傾向となり、ガイドラインの作成も進められ、臨床研修・人材育成に関しても、厚生労働省委託事業やリハビリ関連団体主催のがんのリハビリ研修ワークショップが年に数回開催され、環境は急速に整いつつあると感じている。

本基調講演では、がんのリハビリガイドラインおよびグランドデザイン作成の進捗状況報告とともに、我が国や欧米における、がんのリハビリの現状と今後の動向について解説する。

特別講演

Current status and future of cancer rehabilitation in United States

MD Anderson Cancer Center

Associate Professor

Director of Cancer Rehabilitation Fellowship

Section of Physical Medicine and Rehabilitation

Rajesh R. Yadav

Since the formal evaluation of rehabilitation needs of cancer patients in 1978 by Lehmann, cancer rehabilitation interventions have been shown to be successful in various settings. Positive effects have been noted not only with improved function but also in multiple domains of quality of life including positive affect, decreased distress, and enhanced well-being. However, rehabilitation assessments and interventions are still under utilized with oncology patients.

We will discuss current limitations with providing cancer rehabilitation and propose ideas to improve function and quality of life issues in future by addressing innovations in practice, improving educational models, financial barriers and research challenges.